

令和5年8月2日（水）
長崎建設新聞4面掲載記事

ポリテクセンター長崎 ものづくりの仕事に興味を 親子ものづくり体験教室に75組



親子で文房具整理箱づくり

ポリテクセンター長崎（諫早市小船越町、納富勢子所長）は7月29日、「親子ものづく

り体験教室」を開いた。午前の部、午後の部合わせて75組が参加し、職業訓練校の実践的な

で毎年行っているもの。長崎では本年度、「アクリルキーホルダー&ネームプレート」

環境や知識の下、ものづくりを支える技能の大切さを学んだ。

この取り組みは、ものづくりに関連する仕事に興味を持つてもらえるよう、全国の職業能力開発促進センター（ポリテクセンター）

「ステンレス製小物入れ」「電子キーボード」「文房具整理箱」「スノードーム」の五つの体験コースを設けた。

開講式は、コース毎に分かれた教室のモニター画面を通じて話を聞くオンライン形式で実施。ここで納富所長はポリテクセンターについて「ものづくりの仕事を探している方が、平日に6カ月間、働くためのトレーニングをする施設で、現在、住宅リフォーム技術科など5コースに約130人が通っている」と

説明。さらに、昨年度の長崎センターのトレーニング終了後の就職率は95・7%で、全国に61カ所あるセンターの中でトップレベルにあるとした。

その上で、センターの敷地の近くを通る新幹線に触れ、「新幹線をつくることも、ものづくりの仕事。この体験教室を機会に、皆さんの身近にこんな施設があるという事を知ってもらい、ものづくりの仕事に興味を持ってほしい」と語りかけた。参加者はその後、テ

クノインストラクター（職業訓練指導員）の指導を受けながら、ものづくりを体験。このうち文房具整理箱は、あらかじめ底板、側板、仕切り板に切られた北欧の木材レックドバインを、釘とボンドで組み上げて好みの色に塗るもの。

子供らは当初、細かい釘を金づちで打つ際に「難しい」「曲がっちゃう」などと苦戦していたが、テクノインストラクターのア

ドバインを受けて何本か打つうちにコツを覚えて真つす釘を打てるようになり、「楽しい」と笑顔を見せていた。



オンラインで行われた開講式